

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101901		
法人名	有限会社ムツミサプライ		
事業所名	グループホームたらみ		
所在地	長崎県諫早市多良見町化屋1235		
自己評価作成日	平成30年2月2日	評価結果市町村受理日	平成30年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ご家族様にもご協力いただき、家庭的な温かさの中、表情豊かに生き生きと明るく暮らしていただけるよう努めています。また、その人らしさや個々の能力に応じて個別的な支援を心がけています。高齢で認知症以外の疾病も持っておられるため、医療面でも協力病院との連携体制を充実し、できるだけ安心していただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは諫早と長崎市内を結ぶ国道の沿線脇に位置し、近隣に医療機関や学校施設などを構える住宅地の一角にあります。小規模多機能ホームと隣接したホームは開設15年を迎え、入居者や家族が安心、安全に生活していただけるよう入居者それぞれに応じた個別ケアを重視した支援に努めています。近隣からの入居者も多く、日常的に家族の面会が多いことから、職員は入居者の変化や状況報告を細かに行き、家族と密に関わりながら家族とともに入居者を支えるよう努めています。また今年度は新しい施設長を迎え、さらに職員の職場環境の改善や入居者の支援の充実に向け取り組んでいます。施設長と管理者は、理念をさらに分かりやすいものへと工夫しながら職員への浸透を図り、また外出支援の充実など入居者の言葉にできない思いを理解しながら、職員とともによりよいホーム作りに行きたいとの願いを持って支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が理念を理解し、入居者の皆様、ご家族様が利用して良かったと喜ばれるよう努めている。	入居者が安心・安全に生活できるよう、職員は入居者や家族との関わりを大事にし、入居者や家族の信頼のおける施設づくりを目指しています。定期的な職員会議や、カンファレンスで支援状況を振り返りながら理念の浸透を図り、入居者や家族との関係性をさらに深めていけるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散髪や買い物、病院受診、ボランティア訪問等で地域の方(知り合い)の方たちと会話を楽しまれる。	ホームは開かれた施設づくりを目指し、行事や散歩を通して地域の方と顔が見える関係づくりに努めています。地域から入居している入居者や家族も多く、困った時には親身に相談に乗っていただく関係づくりもできています。定期的な大正琴や踊りのボランティアの受け入れもありますが、入居者が外出し、交流の機会を作るなど今後さらなる取り組みが望まれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回開催される運営推進会議で地域の方やご家族へは認知症の高齢者に対する支援方法や理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などを取り入れサービスの向上に努めている。	推進会議では入居者の状況や行事等が話し合わせられ、ホームの運営状況が分かりやすく伝えられています。参加者によりホームを理解してもらうために事故報告など課題や問題等を隠さず伝え、参加者が意見を述べやすい雰囲気や大事に取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を取り、施設の運営に関する相談を行っている。	グループホーム連絡協議会に出席し、地域の課題や困難事例について情報交換が行われています。管理者は市で取り組む認知症に関する普及啓発活動に参加し、オレンジ手帳の書き方講習会に専門職として関わりを持ちました。運営推進会議にも包括職員の出席があることから、支援内容について適宜助言をもらい、適切な運営に向け意識を持って関わるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしてはいけないことを理解している。	ホームは「身体拘束ゼロ」の方針で入居者と関わり、今年度は言葉遣いについて課題意識を持ち支援に努めました。身体拘束の具体的な行為や入居者の行動の理由を理解し、適切な対応をとることで本人が穏やかに生活できるよう支援に努めています。現在防犯観点から玄関のオートロックがなされている現状にありますが施錠のない暮らしの実現に向け取り組むことが望まれます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講演会や研修などに参加して理解を深め、日頃から利用者様の身体観察を行い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域で開かれている研修などを利用し学ぶ機会を設けるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様やご家族様の意見や希望を聞き、ケアへの取り組み方などを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族様へは受診状況や日中の過ごし方などの報告を手紙で伝え、必要に応じて電話連絡を行い相談や要望を聞くよう努めている。	アットホームな関係づくりを目指し、入居者や家族の声に耳を傾けながら、安心して生活できる環境作りに努めています。家族へは小さな変化や伝えるべきことはしっかりと伝え、入居者や家族と接する際は笑顔を持って関わり、暮らしぶりをわかりやすく伝えることで本人と家族との繋がりが途切れないよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行い意見交換できる場を設けている。また、意見箱も設置し言葉では言いにくい内容なども意見を聞けるように取り組んでいる。	定期的な会議のほか、日常的に職員間でコミュニケーションをとりながら職員全体がホームの運営に意識を持って取り組んでいます。入居者が必要としている支援に気づく力を養うために、職員は研修や資格取得に向け取り組み、支援方法や関わり方を話し合いながら介助の質の確保に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修以外にも個人的に参加している職員の状況を把握して職員個々の評価へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修とは別に外部の研修案内などを職員全員にお知らせし積極的に参加を促し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修などを利用し他の施設の職員との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様やご家族と事前面談を行い、生活状況や身体状態などの情報提供を依頼してご本人を理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が今まで困窮されてきた状況や状態を聞き、ご家族様に安心していただけるようなケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況やご家族の状況を踏まえた上で臨機応変に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や行動を共にすることによって職員と入居者様との関係を「暮らしを共にする」という関係に近づけていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを聞き寄り添い日頃の気付きや出来事を共有して入居者様を支えていくことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用したり買い物に行ったり、友人や知人との交流を持ちやすい環境を作り、個々の生活スタイルを尊重している。	家族からの情報や入居者との会話の中で、本人がこれまで大事にしてきた人や場所について共通理解し、関係者と協力しながら本人の気持ちに寄り添い対応しています。外出や面会時間に大きな制約をせず、気兼ねなく訪問できる環境を準備しています。自由に面会の機会を設けることで不安感や寂しさ等、本人の思いが理解できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流関係が上手くいくように、レクリエーションを行ったり席替えをしたりして入居者様同士が会話を楽しんだりできるように日常の変化や情報を共有して注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方でもその後の経過を見守っている。ご家族様からの相談なども都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より情報を収集・共有し、入居者様の思いを表情や言動より汲み取り、寄り添うケアが出来るように努めている。	個人記録にはその日にあった出来事や過ごし方を記録に残し、その入居者の思いや意向を共通認識できるように努めています。職員はその方が大事にしていた考え方や過ごし方の意向を支援に繋げ、職員間で支援の方針を話し合いながら、本人の思いに寄り添うよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメント表の活用、ご家族様からの情報提供により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、バイタル測定、レクリエーションへの参加を促し、残存機能の低下防止に努め、安全に生活できるようケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や状態の観察を日誌に記入し、課題となるものが発生すれば話し合いを行い介護計画を作成している。	ケアプランは、担当職員や関わるスタッフで話し合い、家族の意向も踏まえながらその人に応じた内容で作られています。個人記録に実施状況を記録しながら定期的に確認、評価し、その方にとってよりよい生活に繋がる計画書となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に一日の出来事や、どのように過ごされたのかを記入し、全職員が連携した実践が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態を見て、臨機応変に外出や医療機関の受診等を行い家族様の意向に合わせて外出や外泊に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の通い慣れた商店等を利用したりすることによって暮らしを楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じて、かかりつけ医院とも情報の共有に努め適切な医療を受けられるよう支援している。	定期受診はホーム職員が付き添い、日頃の健康状態を担当医に伝えながら適切な医療が受けられるよう努めています。日頃関わるスタッフが入居者それぞれの状態を把握できるようこまめに申し送りが行われ、医師や家族へ些細な体調変化や、支援の中での気づきを適切に伝えることができる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や身体観察を行い状態の変化に応じて看護師へ報告を行い必要に応じて医療機関等とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院は主治医と話し合いを行い、状態に応じて早期退院できるように医療機関と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化された場合は、状態に応じてご家族様や主治医、職員との話し合いを行い、要望に添えるように努めている。	これまでも家族や医師との終末期に向けた話し合いの機会を持ちながら、入居者本人や家族が納得できる終末期を迎えることができるよう体制を整え支援に努めています。看取りを迎える日まで、口にできる物や家族との過ごし方等制限せずに見守り、職員の倫理観や身体管理の仕方などを確認しながら安らかな看取りができるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習には全職員が交代で受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署や近隣住民の方からも協力を得て、避難訓練を行い、定期的に消火器の点検も行っている。	定期的な避難訓練では入居者の体調を見ながらできるだけ参加を促し、有事の際にとる入居者の動きを予測しながら実効性の高い訓練となるよう努めています。今年度は立地条件や地域性から風水害を想定し関係機関と話し合いの機会を持ちました。今回防災計画を策定し、災害対策や災害発生時の対応について明文化し、年1回消防署より心肺蘇生法を受講するなど救命への意識を持って取り組んでいます。	今回の職員ヒアリングにおいて、災害計画書の周知に不十分さが窺え、入居者の安全確保の観点から、咄嗟に行動に移せる体制の重要性が感じられます。建物の構造上一時避難通路の足場やスペース確保に不安が残り、職員との災害計画書の読み合わせや常に速やかに安全に避難できるような環境整備が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等は一人ひとりの人格を尊重し、命令口調は使わず、対応には十分注意している。	入居者や家族とお互いに心地よく過ごすために、思いやりの気持ちや意識を持って関わり、今年度は特に言葉かけについて再確認し、意識的に取り組みました。親しみやすい関わりの中に、入居者と職員の距離感を意識しながら、尊厳を持った関わりを行うよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの希望があった場合には出来るだけ希望に沿えるよう努め、意思表示が困難な方に対しては表情や反応を日頃から観察して、ご本人の意思をくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のリズムに合わせて、ゆっくり安心して生活できるような環境づくりを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みのものを身につけていただけるようにしている。ご本人の希望に応じて交換、更衣の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理のいきとどいた献立を厨房で作って提供し、気の合った方々が同じテーブルで楽しく食べていただけるよう支援している。	手造りのおやつやおせち作り、松前づけなど食材を入居者に触れてもらうことで調理をしていた記憶を回想し、入居者は懐かしい会話を楽しむことができています。栄養バランスを考慮された献立は、厨房で一括調理されたものとなっており、より食事が楽しみなものになるよう家庭的な雰囲気作りの追求が求められます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事や水分の摂取量の確認を行い、一人ひとりの状態に応じた量や提供形態の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は見守りの下、口腔ケアを行い、介助が必要な方は職員が付き添い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録して、時間毎にトイレ案内を行っている。また、入居者様の動きに合わせてトイレ案内を行っている。	職員は個々の排泄パターンを理解し、不快感を軽減させるよう、できるだけトイレでの排泄を意識し排泄動作など専門医の助言を受けながら支援に努めています。尊厳を傷付けないケアの実践に努め、いつまでも排泄を人の目にさらしたくない思いを理解し、入居者が気負いなく自分でパットや更衣ができるよう環境を整え対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や腹部マッサージ、適度な運動を行ない便秘解消に努めている。必要に応じて担当医に相談して下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や希望なども考慮し適時入浴を行っている。入浴を好まれない方は時間を置いたり入浴へのアプローチの方法を変えながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。	入居者がゆっくりと身体を温めることができるよう、お湯の温度や、入浴方法を検討しながら支援に努めています。本人の希望に応じて毎日の入浴も可能であり、毎日の清拭など臨機応変に対応しながら、皮膚トラブル清潔感など本人の体調と相談しながら無理なく入浴できるよう支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息したりできるだけ日中は身体を動かしていただけるような支援を行い夜間の安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は全職員が把握できるように入居者様のカルテに個別に保管し、目的や副作用を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりに出来る作業をお願いし、レクリエーションを通じて気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物支援も行っている。入居者様の希望の行き先によっては、ご家族様に了解を得て外出を行っている。	入居者以前の暮らしぶりから、その方に応じた外出方法を検討し、時には家族と協力しながら外に出る機会を大事に考えています。現在事故リスクから、ホーム周辺の散歩や外気浴にとどまる状況にありますが、家族の外出に対する要望が多いことを受け来年度より外出を積極的に取り入れていきたいと考えています。今後も臨機応変に外出できる体制作りが望まれます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿って少量の金額を所持していただき、買い物の際には支払いもしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて施設の電話を使っていたいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけを入居者様と一緒に、リビングには温湿度計を設置して居心地のいい環境づくりに努めている。	入居者の関係性を考慮した席を配置し、壁面には季節感のある飾り付けをしながら共用空間が居心地の良いものとなるよう努めています。トイレや浴室など入居者が場所を混乱しないよう目印をつけ、また浴室入口には当日入浴予定となっている入居者の名前を示し、入浴日への意識付けや本人の意思決定ができるような工夫も窺えました。	家具や物品の位置、経年劣化した掲示物等は入居者の快適さや居心地の良さを妨げとなり適切な環境とは言い難い部分が窺われます。ホーム周辺や中庭の手入れなどはADLや生活意欲の向上繋がる大変重要な支援となるため、さらなる環境整備の追求が望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて一人でも複数でも思い思いに過ごせるよう環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には今までご自分で使われてきた馴染みの物を持ち込んでいただき入居者様が居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	居室には自宅で使っていた家具や手回り品の持ち込みがあり、家族と相談しながら入居者自身が自分らしい生活が送れるよう努めています。入居者が大事にしていた趣味の道具や思い出の品が飾られ、またポットやお茶の道具の持ち込みがあるなど、その方の日課や個性や空間を大事にした居室づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の標示は入居者様にわかりやすいように目印をつけ、大きく表示を行っている。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様をはじめご家族に「良かった」と思っていたりできるよう理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院・散髪・傾聴ボランティアなど地域や知り合いの方々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人ひとりが認知症を理解し支援の方法をより深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などを取り入れサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を取り、施設の運営に関する相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしてはいけないという事を理解している。玄関の施錠に関してはご家族様からの理解を得て施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から身体に傷を発見すると他の職員に報告を行い原因の特定に努め再発防止策を立てることで、虐待や事故による入居者のけがを防いでいる。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会を作り、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時やケアプラン更新時に取り組みの説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時などにご本人様やご家族様に希望を伺い、介護計画に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスを設け意見交換できる時間を作っている。また、意見箱を設置し職員の意見を言いやすい環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修以外にも個人的に研修に参加している職員の状況を把握して職員個々の評価に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での定期的な研修や外部への研修へ出来るだけ参加していただき、知識やスキルアップの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会など、同じ職種の方々が集まる研修へ参加する機会を設け他の施設の情報を取り入れ質の向上に活かしている。		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様やご家族様との事前面談を行い、生活状況、身体的状況を把握することに努め情報提供を依頼してご本人を理解する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様が今まで困窮されてきた状況や状態を聞き、必要に応じて他機関への情報を提供したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族様の状況を踏まえた上で臨機応変に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や行動を共にすることによって職員と入居者様との関係を「暮らしを共にする」という関係に近づけていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを聞き寄り添い日頃の気付きや出来事を共有して入居者様を支えていくことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用したり買い物に行ったり、友人や知人との交流を持ちやすい環境を作り努め、個々の生活スタイルを尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の変化や体調など、などを把握して交流関係が上手くいくように支援させていただいている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方でもその後の経過を見守っている。ご家族様からの相談なども都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前より情報収集を行いご本人の思いを表情や話を傾聴し支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメント表の活用、ご家族様からの情報提供により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、バイタル測定、レクリエーションへの参加を促し、残存機能の低下防止に努め、安全に生活できるようケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や状態の観察を日誌に記入し、課題となるものが発生すれば話し合いを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に一日の出来事や、どのように過ごされたのかを記入し、全職員が連携した実践が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態を見て、外出・医療機関の受診を行い、ご家族の意向に合わせて外泊の支援も行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の通い慣れた商店等を利用したりすることによって暮らしを楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様のご希望に応じて、かかりつけ医院と情報の共有に努め適切な医療を受けられるように支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や身体観察を行い状態の変化に応じ看護師へ報告を行い必要に応じて医療機関等とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期退院が出来るように密に情報交換を行い対処できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてご家族様・主治医・施設との話し合いを行うことにより、要望に添えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年数回の救命救急講習を行い、職員全員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	何数回、消防署と施設、地域と協力し消防訓練を行い、火災等を未然に防ぐようにしている。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対して誠意をもってプライバシーや人権を尊重しながら対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の日常生活で本人の思い、希望に出来るだけ添うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに出来る限り添うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みのおものを身につけて頂く様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の好みを伺い、喜んでいただけるものを提供するよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事や水分の摂取量の確認を行い、一人ひとりの状態に応じた量や提供形態の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は見守りの下、口腔ケアを行い、介助が必要な方は職員が付き添い口腔ケアを行っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録して、時間毎にトイレ案内を行っている。また、入居者様の動きに合わせてトイレ案内を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や腹部マッサージ、適度な運動を行ない便秘解消に努めている。必要に応じて担当医に相談して下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や希望なども考慮し適時入浴を行っている。入浴を好まれない方は時間を置いたり入浴へのアプローチの方法を変えながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息したりできるだけ日中は身体を動かしていただけるような支援を行い夜間の安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は全職員が把握できるように入居者様のカルテに個別に保管し、目的や副作用を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりに出来る作業をお願いし、レクリエーションを通じて気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物支援も行っている。入居者様の希望の行き先によっては、ご家族様に了解を得て外出を行っている。		



50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿って少量の金額を所持していただき、買い物の際には支払いもしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて施設の電話を使っ ていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけを入居者様と一緒に 行い、リビングには温湿度計を設置して居 心地のいい環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて一人でも複数 でも思い思いに過ごせるよう環境づくりを 行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には今までご自分で使われてきた馴 染みの物を持ち込んでいただき入居者様が 居心地よく過ごしていただけるよう努めてい る。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	トイレや居室の標示は入居者様にわかりや すいように目印をつけ、大きく表示を行って いる。		